

必ず誰かと交換して
赤ペンを入れてもらうこと

作業をした人	C1	
丸付けをした人	C1	

言葉の順序を考える

文章の長さとはかかわりなく、わかりやすくするための、かかる言葉の順序についての
本多勝一氏の原則（『中学生からの作文技術』より）

- ・「かかる言葉」と「受ける言葉」は近いほどわかりやすい。
- ・「美しい水車小屋の娘」は「水車小屋の美しい娘」とした方が誤解されない。
- ・「節」が先、「句」をあとにする。
- ・同じ「節」（または「句」）では、長い方を先にする。
- ・長さが同じくらいのときは、大きな（広い、重要な）内容の方を先にする。
- ・「長さ」も「大きさ」も同じときは、前後の言葉のなじみ具合で配置を考える。

文を切らず、助詞も変えず、読点も加えず、わかりやすく書き直してみましょう。

A 私は小林が中村が鈴木が死んだ現場にいたと証言したのかと思った。

B 私は母が弟に隣の部屋で裏庭で黄色いスマイレの花が咲いたかどうか見てくるように言ったのを聞いていた。

C 白い横線の引かれた厚手の紙を購入した。

D Aが私がふるえるほど大嫌いなBを私の親友のCに紹介した。（「AがBをCに紹介した」に修飾がついた文）

E 明日は雨だとこの地方の自然に長くなじんできた私は直感した。

F 私は明日はたぶん大雨になるのではないかと思った。

G ナイフで太郎さんが薬指にけがをした。

H チリ美人は、アルゼンチンの肉をたっぷり食べているセニョリータにくらべると、ぐっと小柄である。

I 実の娘夫婦が胃がんなどのために「死にたい」と漏らす老母をバイクで荒川まで連れて行き、入水自殺を見届けるという事件が夫婦の自首で明るみに出た。